

普及活動情勢報告（平成30年9月分）

高吾農業改良普及所

どうしたらもっと良い出荷場になるか？～出荷場GAP研修～



トマト選果場で点検

8月29日、J Aコスモスのトマト及びショウガの集出荷場で出荷場GAP研修を行い、J Aコスモスの全出荷場の担当者を含む29名の参加がありました。

講師の藤井淳生氏からは「防鳥ネットがはられてない部分があるのはなぜか?」「高圧水での床の洗浄はやめたほうが良い」などの指摘を受けました。また、点検方法については、出荷場担当者の気づきを促すよう質問することがGAP指導員にとって重要と助言がありました。

普及所は今後も、J A、園芸連と連携して集出荷場GAP点検を行い、今回の指摘事項がどのように実践されているかを確認していきます。

ニラで環境制御技術を使いこなそう～ニラ生産部月例会～



環境制御技術を学ぶ生産者

9月7日、J Aコスモスニラ生産部が月例会を開催し、後継者や新規就農者を含む16名の参加があり、ニラにおける環境制御技術について学びました。

管内の生産者は電照が生育に与える影響や、抽だいとの関係性についての関心が高く、「日長延長と暗期中断では効果がどう違うか?」「過剰電照で抽だいた後は、もう抽だいしないか?」などの質問が相次ぎました。

普及所は環境制御技術の実証ほを設置する予定で、その調査結果も含め生産者へ情報提供していきます。

集落ビジョン作成開始



集落の現状を再確認する組合員

9月4日、日高村（農）沖名営農組合が集落ビジョン作成のためのワークショップを行いました。組織は設立4年目に入り、当初計画の見直しのために、課題を整理し今後の集落ビジョンと経営計画作成を数回に分けて行っていきます。

「人の意見を否定しない」等のルールに基づき「担い手」「農地」等のテーマごとに、現状の良いところ、問題点を話し合いました。参加者からは「現状把握しビジョン作りをすることは重要だ」との意見が聞かれました。

普及所は今後も関係機関と連携し、集落営農組織のステップアップを支援していきます。

観光農園の体験メニューづくり ～6次産業化チーム会～



リンゴジュースの試作

9月12日、高吾農業改良普及所で第2回6次産業化支援チーム会を開催しました。

土本観光果樹園の「リンゴジュースづくり体験」メニュー化に、チーム員が工程を体験し、分量やコーナーづくりなどをアドバイスしました。「今までは無料で提供していたが、売上げにつなげたい」「お客さんからは料金を払っても飲みたい客の声もある」とのことから、料金設定などを協議しました。10月9日にはチーム員が現地でリンゴジュース作り体験をすることになりました。

普及所は、今後もチーム会を開催し、体験メニューづくりの支援や情報発信方法を提案して6次産業化を推進します。

イチゴの定植が始まりました



イチゴの定植進行中です

佐川町を中心に栽培されているイチゴの定植が始まりました。管内では「ゆめのか」や「さちのか」などの品種が主に土耕栽培されています。定植に先立って、普及所では花芽分化の確認を行いました。分化が確認できた苗は9月中旬から下旬にかけて定植され、イチゴは12月上旬頃から出荷されます。

普及所はこれからのイチゴ栽培シーズンにかけて、天敵を利用した害虫防除や環境制御技術などの情報提供を行い、栽培を支援していきます。